

山里海医学共育プロジェクト 鳥取大学 2023 年夏プログラム

美しい山と海、数々のグルメに満ちた夏の山陰で楽しく臨床実習を行い、わが国トップレベルの救急・災害医療、感染症医療を体験しよう！

対象: 医学部医学科 4～6 年次学生

文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」の対象となっている鳥取、島根、岡山、香川の各大学の地域枠学生を優先的に受け入れるが、地域枠以外の学生や上記 4 大学以外の学生も歓迎する。

実施場所: 鳥取大学医学部附属病院および関連施設

受入期間: 2023 年 7 月 31 日 (月)～8 月 25 日 (金)のうちの任意の期間。受講者の希望に合わせて 1 日間～1 週間のプログラムを提供する。

プログラム(各プログラムの詳細は別紙および下記 URL の通り)

- (1) 救急災害医療学クリニカルクラークシップ I (共用試験合格後の basic な臨床実習を行っている 4～5 年次学生が対象)
- (2) 救急災害医療学クリニカルクラークシップ II (advanced の臨床実習を行っている 5～6 年次学生が対象)
- (3) 総合感染症学クリニカルクラークシップ I (共用試験合格後の basic な臨床実習を行っている 4～5 年次学生が対象)
- (4) 総合感染症学クリニカルクラークシップ II (advanced の臨床実習を行っている 5～6 年次学生が対象)

<https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/program/master1> (救急災害医療学)

<https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/program/master3> (総合感染症)

その他:

宿泊: 希望者は「とりだい病院 宿泊施設」(シングルルーム 3,300 円/1 泊、ツインルーム 5,500 円/1 泊)の利用が可能。

申し込み:

希望者は、①氏名(ふりがな)、②所属大学、③学年、④地域枠か否か(地域枠の場合は選抜枠の種類も記載)、⑤連絡先電話番号、⑥希望プログラム(複数選択可)、⑦希望実習期間(●月■日～○月□日の△日間)、⑧その他要望等(あれば)を明記し、E-mail または下記申込みフォームから 7 月 25 日 (火)までに申し込んでください。申込先は下記の通りです。

申込みフォーム: <https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/event/366.html>

メール:

〒683-8503 鳥取県米子市西町 86

鳥取大学医学部地域医療共育推進室

E-mail: chiiki-suishin@ml.med.tottori-u.ac.jp

プログラム

【救急医学・災害医療学マスター養成プログラム】

救急災害医療学クリニカルクラークシップⅠ(4～5年次)

救急初療室では初療対応を指導医のもとで初療対応に参加する。

集中治療を要する患者に対する診療に指導医とペアで参加する。

地域の消防署の救急車やドクターカーに同乗し、病院前救急診療について学ぶ。

Acute Care Surgery・IVR・内視鏡治療等、侵襲的処置にも参加する。

救急災害医療学クリニカルクラークシップⅡ(5～6年次)

クリニカルクラークシップⅠに加え、下記のコースを選択する。(複数選択可)

- ①病院前救急診療コース:救急車、ドクターカー、ドクターヘリへの同乗を積極的に行い 診療に参加するとともに、Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care(JPTEC)コースの受講を通し、病院前救護に必要な知識と技能を修得する。
- ②ER型救急医療コース:ERでの診療、比較的軽症から中等症患者の診療に参加。
- ③三次救急コース:二次救急では対応できない重症・重篤患者や特殊疾病患者を受け入れ、より高度な救命救急医療が必要な患者の診療へ参加。
- ④多発外傷コース:多発外傷時のダメージコントロールサージャリーや外傷初期治療に参加。患者不在時には、HoloLensを利用して、指導医とともに診療体験を行うことができる。
- ⑤熱傷診療コース:熱傷患者の熱傷深部評価・熱傷面積の評価を行い、自家培養表皮の手術に参加できる。患者不在時には、VRを利用し指導医とともに診療体験ができる。
- ⑥災害医療コース:災害医療対策を学ぶ。EMARGOトレーニングシステムを利用し、過去に起きた災害の分析や検証、現在の対応マニュアルの確認、想定したシナリオと設定に基づき机上の訓練など、様々な角度からシミュレーションを行う。事故・災害現場の再現、現場のトリアージや応急処置、後方搬送手段、各関係機関(医療、救助、警察)の役割と各機関とのコミュニケーション方法、搬送後の受入医療機関での対応など、救援に携わるあらゆる想定シミュレーションを行い、トレーニングを行う。

【感染症学マスター養成プログラム】

総合感染症学クリニカルクラークシップⅠ(4～5年次)

外来患者、入院患者の感染症診療を指導医とともに、実践する。実践を通して、感染症診療の基本的考え方および抗菌薬の適正使用を身につける。感染症診療と感染予防策に関する総合的な理解を深め、実臨床に応用することができる能力を早期から身に付ける。

総合感染症学クリニカルクラークシップⅡ(5～6年次)

クリニカルクラークシップⅠに加え、実習には、行政(地域感染制御ネットワーク、保健所)での感染対策に関する実習を含む。

下記のコースから希望の領域を中心に実習を行う。(複数選択可)

- ①感染症診療:感染症診療の基本的考え方および抗菌薬の適正使用を身につける
- ②微生物検査実習:グラム染色・血液培養・その他の微生物検査の内容を理解する
- ③感染予防策:手指衛生・標準予防策・経路別感染対策の理解および実践
- ④職業感染対策:流行性感染症に対する医療者のワクチン接種・体液曝露時の対応を理解する
- ⑤国際感染症:輸入・熱帯感染症の診断・治療および渡航ワクチンを理解・実践する
- ⑥サーベイランス:院内感染症サーベイランスを理解・実践し、感染予防につなげる

- ⑦感染対策における地域連携:同一医療圏内の医療機関・保健所との連携を理解する
- ⑧感染症シミュレーション教育:受講者に安全な感染症教育を行うために、感染症患者診察現場や、防護具を着用しての医療実施現場をバーチャルリアリティ(VR)上で再現して教育を行うなど、VR、シミュレーション、リモート教育を積極的に取り入れる。このことにより、安全な感染症教育の実現とともに、遠隔地にいる卒後医療人(研修医等)へのプログラム参加も可能とする。